

令和2年度第1回埼玉県東部地域保健医療・地域医療構想協議会 議事概要

1 日時及び会場

令和2年11月19日(木) 午後7時30分から午後8時30分
越谷市中央市民会館 5階 第4～第6会議室

2 出席者

・協議会委員(別紙名簿のとおり)

委員総数30人 出席29人(代理1名含む) 欠席 1人

・地域医療構想アドバイザー

・事務局

保健医療政策課、医療整備課、高齢者福祉課、春日部保健所、草加保健所、越谷市地域医療課、
越谷市保健所職員

・説明者

埼玉県地域保健医療計画に基づく病床整備計画報告:2医療機関

第7次地域保健医療計画に基づく病床整備計画の中止報告:1医療機関

・傍聴者

4人

3 議事

(1) 平成30年度病床機能報告の定量基準分析結果について

資料1-1～1-3に基づく保健医療政策課からの説明と意見交換が行われた。

【主な意見等】

・特になし。

(2) 第7次埼玉県地域保健医療計画に基づく病床整備の状況について

資料2-1に基づく医療整備課からの説明が行われた。

資料2-2に基づく武里病院からの説明が行われた。

資料2-3に基づくリハビリテーション天草病院からの説明が行われた。

資料2-5に基づく埼玉クリニックからの説明が行われた。

【主な意見等】

・特になし。

(3) 埼玉県地域保健医療計画の中間見直しについて

資料3に基づく保健医療政策課からの説明と意見交換が行われた。

【主な意見等】

・資料3の3ページ(2) 基準病床数の見直しに関して、地域で充足が必要な医療機能をどのように確保するか。この想定される課題の5番目、慢性期について。「病床稼働率の向上」と「病床数の増」がこの圏域においては必要だということである。

・2025年の必要病床数によっても慢性期の病床はまだ不足している状況であるし、埼玉県の定量基

準分析に照らし合わせてもまだ不足しているという状況がある。しかしながら、稼働率が低いという状況である。制度を作ったときは、慢性期は92%ぐらいの稼働ということで想定した。現状、全県に比べても東部圏域の慢性期の稼働率が低い状況である。

・稼働率が低いということをどうとらえるか。これから高齢者も増えますので、2025年を目途に病床を増やしたほうが良いということですが、もしかしたら、患者需要が減っていて、そのために稼働率が低いのではないか。患者需要が低い、そのために稼働率が低い中、病床を増やしてしまうと病床が空いてしまうという状況が生じる。

・例えば、制度創設時に比べ療養病床においても在宅移行がかなり進められている。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)が始まっていて、今、死生観から言っても以前のように長期入院しながら経管栄養という入院患者さんも減っていく。そういった方も稼働率低下の原因につながっているのかもしれない。

・サービス付き高齢者住宅も非常に増えてきているという話があり、そちらの方に患者が流れているのかもしれない。

・制度を作ったときに比べて本当に病床が必要なのか、需要が必要なのかというのが非常に疑問がある。患者がいらないから稼働率が減っているという視点が当然ありえる。

・現場を見て、病床稼働を見ていきながら、しっかり過不足のない病床を増やしてもらえたらと思っている。この資料だと稼働が低くて必要病床数に比べ病床数が少ないから病床を増やしたほうが良いのではないかとこのことのように。

→今後、東部圏域の医療提供体制構築を進めていくなかで、委員からいただいた観点を当然考えていく必要があると思っている。医療計画の中間見直しの内容として、「基準病床数の見直しに関して」と入れさせていただいているが、現場の状況をきちんと把握する取組をこれからも進めていったうえで、その結果を踏まえ、基準病床数を今後どうしていくかということを検討して参りたい。

(4) 第7次地域保健医療計画(後期)及び第8期介護保険事業(支援)計画における在宅医療・介護サービス等の追加的需要へ対応するサービス見込み量の調整について

資料4-1、4-2に基づく高齢者福祉課からの説明と意見交換が行われた。

【主な意見等】

- ・特になし。

○地域医療構想アドバイザーの発言

・一人当たり医療費が県平均以下で、全国平均を大きく下回っている地域である。一人当たり医療費の中でも特に入院費が低くなっており、これは療養病床の平均在院日数が短いことが理由の一つとして考えられる。療養病床の平均在院日数が短いことについては、高齢者のための施設や住宅が比較的多く、医療施設から地域への流れが一定程度できていることが背景にあるのではないかと考えている。

・国が一人当たり医療費の削減、それから地域格差是正を図っているが、当地域はその目標となる優良地域であるということを誇ってよいのではないかと考えている。

・一方で2025年に向けては需要と供給のバランスを図るということであったが、ちょっと先、2040年を想定すると人材確保が困難な時代になるだろうと考えている。そうすると、今後、より地域化を進めていかなければならないと思っている。

- ・当協議会においても、目標に高齢者施設、住宅の増設、在宅のインフラ整備を掲げている。さらに在宅療養の継続を可能とするための環境整備に向けて、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、介護職員の確保、地域ケアネットワークの強化などを進められようとしている。また、健康づくりや介護予防を通じて医療介護事業を減らし、サービス供給量を抑えるという取組も必要になると思っている。地域住民の方々に対する啓発、それから保健事業の展開については、行政のかかわりが欠かせない。
- ・本調整会議を地域保健医療・地域福祉充実に向けた発信の機会・発信の場として位置付けてもらえたらと思っている。